

トルコギキョウ葉巻病を確認

[現在の状況]

- ① 平成20年8月、銚田市の夏秋切りトルコギキョウにおいて、生長点付近の葉が巻き、葉脈が隆起する症状が確認された。ウイルスによる病害が疑われたため、農業総合センター生物工学研究所においてPCR検定を行った結果、トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)を確認したことから、トルコギキョウ葉巻病と診断した。
- ② 本県において、TYLCVによる病害は、平成18年にトマトで確認し、病害虫発生予察特殊報を発表したが、トルコギキョウにおける発生は初めてである。

[病徴]

発病した株は節間が伸びず萎縮し、葉表を内側にして葉巻症状を呈する。また葉脈が隆起し、葉が黄化する場合もある(写真1, 2)。

[伝染方法等]

本病はトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)により発病する。本ウイルスはタバココナジラミの幼・成虫によって媒介される。媒介虫は一旦ウイルスを獲得すると、死亡するまで伝搬能力を保持するが、経卵伝染はしないとされている。また、汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしない。なお、オンシツコナジラミは本ウイルスを媒介しない。

[防除対策]

本ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除と、伝染源や飛来源の除去が重要となる。

1) タバココナジラミをハウスに入れない

- ① ハウス開口部に防虫ネット(0.4mm目合い以下)を設置し、タバココナジラミのハウス内への飛び込みを防止する。なお、0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置した場合、ハウス内の温度が高くなることが予想されるので、ダクト通風や循環扇の設置、サイドの開閉、遮光資材の利用等により、適切な温度管理に努める。

また、光反射マルチやUVカットフィルムの設置も、飛び込み防止に効果がある。

なお、UVカットフィルムを設置した場合、濃色品種では花色発現に影響する可能性があるため注意する。

- ② 感染した苗や異常が見られる苗はハウス内に持ち込まない。また、育苗時からタバココナジラミの防除を徹底する。

2) タバココナジラミをハウス内で増やさない

- ① タバココナジラミの発生が見られたら薬剤散布を実施する。また、黄色粘着板を設置し、タバココナジラミの発生状況を把握して防除にあたる。

3) タバココナジラミをハウス外に出さない

- ① 栽培終了時には、残った株を抜き取った後、ハウスの蒸しこみを行い、タバココナジラミを確実に死滅させ、野外に出さないようにする。蒸し込みは、ハウス内の温度が40℃を超える日が連続5日以上となるのを目安とする。

4) ウイルス伝染源の処分とタバココナジラミ生息場所の除去

- ① 発病が認められた株は、伝染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、腐らせてから処分する。
- ② 本ウイルスはトマトにも感染、発病するので、周辺で栽培されているトマトについても発生がないか十分注意する。
- ③ タバココナジラミの生息場所となるハウス内外の除草を徹底する。



写真1 生長点付近の葉巻症状



写真2 葉脈の隆起症状